

2024 年度
ファカルティ・ディベロップメント活動報告

東京基督教大学

巻頭言

「キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」

(コロサイ人への手紙 3:11)

1990年に開学したTCUは、その開学当初から「キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」(コロサイ 3:11)を掲げてきた。この御言葉に基づき、全ての学問領域は神の創造された世界の中に存在し、それぞれの学問領域にキリストの主権が及び、そしてすべての学問がキリストに仕えるものであるとの土台の上に、TCUは歩みを進めてきた。

2025年度より、学科名が「総合神学科」から「神学・国際教養学科」に改称され、新たなスタートを切った。これは、TCUのカリキュラムの特徴がより明確に学内外にも伝わるようにとの願いを込めたものである。この35年間に学科名の変遷はあったが、「キリストがすべて」を学問の根拠とするという基本的な方向性に揺らぎがない。36年目を迎えるTCUが、これからも「キリストがすべて」に根ざした教育機関であり続けることを願ってやまない。

学部長 (FD委員長) 岩田三枝子

目次

ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程・・・・・・・・・・	4
2024 年度 FD 委員会メンバー表、FD 活動一覧・・・・・・・・・・	5
夏期教員研修会(8 月 20 日)・・・・・・・・・・	6
「TCU のチカラーTCU の神学教育の意義ー」	
講 師：篠原基章	
第 2 回ファカルティ・フォーラム（12 月 17 日）・・・・・・・・・・	14
「DP（ディプロマポリシー）ループリック検討&活用ワークショップ	
～学生の成長を促す教学マネジメントに向けて～」	
講 師：立山剛	
第 3 回ファカルティ・フォーラム（3 月 4 日）・・・・・・・・・・	24
「生成 AI は大学教職員の頼れるパートナーになりえるのか？	
～AI を活用した教育活動の効率化・高度化を考える～」	
講 師：立山剛	
付録・・・・・・・・・・	34
授業評価	
学生による授業評価アンケート（2024 年度）実施要領	
教員による授業相互評価（2024 年度）評価項目	
案内ちらし	
第 1 回ファカルティ・フォーラム（6 月 11 日）	

ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程

2008年（平成20年）9月9日施行

（目的）

第1条 東京基督教大学は、建学の精神に基づき、教育理念の実現に向け、教育活動の継続的な改善と支援を目的として、ファカルティ・ディベロップメント活動（以下「FD活動」という）を推進するため、ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事項を審議し、FD活動を推進するための組織的な取り組みを行う。

- （1）教育研究活動のための調査および支援
- （2）授業内容・方法の改善・向上のための計画・実施
- （3）新任教員研修
- （4）FD活動の点検及び評価
- （5）FD活動報告書の刊行
- （6）FD活動に関する情報の収集と提供
- （7）その他FD活動の目的達成に必要な活動

第3条 （削除）

（委員会の構成員）

第4条 本委員会の構成員は、学務会議の構成員とする

（委員長）

第5条 委員会の委員長は、学務会議の議長とする。

（会議）

第6条 委員会は、適宜会議を開く。

2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

3 委員会は、委員の過半数をもって成立し、審議事項の決済には、出席委員の過半数の賛成を必要とする。

（事務担当者）

第7条 委員会は、本学におけるFD諸活動を実施するために、事務担当者を置く。

（規程の改廃）

第8条 この規程の改廃は、委員会の提案に基づき、教授会の議を経て学長が行う。

附則 [2008年（平成20年）9月9日制定]

この規程は、2008年（平成20年）9月9日から施行する。

附則 [2012年（平成24年）1月10日改正]

この規程は、2012年（平成24年）4月1日から施行する。

附則 [2015年（平成27年）1月13日改正]

この規程は、2015年（平成27年）1月13日から施行する。

附則 [2016年（平成28年）1月12日改正]

この規程は、2016年（平成28年）1月12日から施行する。

附則 [2020年（令和2年）2月4日改正]

この規程は、2020年（令和2年）2月4日から施行する。

附則 [2021年（令和3年）3月2日改正]

この規程は、2021年（令和3年）4月1日から施行する。

2024年度 ファカルティ・ディベロップメント委員会構成員

岩田 三枝子（委員長）
 篠原 基章
 岡村 直樹
 齋藤 五十三
 森 恵子
 David Steven Sytsma
 立山 剛

2024年度 FD活動一覧

開催日	FD活動	講師・発題者	場所	対象	参加者数
2024年6月11日	第1回 Faculty Forum 紀要合評会「非正規滞在外国人の入管問題とキリスト教福祉実践Ⅰ」	井上貴詞	FCCチャペル	全専任教員 博士課程学生	15名
2024年8月20日	教職員研修会 「TCU のチカラーTCU の神学教育の意義一」	篠原基章 大森 謙治 大森 絵美	FCCチャペル	全専任教職員	37名
2024年12月17日	第2回 Faculty Forum 「DP（ディプロマポリシー）ルーブリック検討&活用ワークショップ ～学生の成長を促す教学マネジメントに向けて～」	立山剛	中4教室	全専任教員	23名
2025年3月4日	第3回 Faculty Forum 「生成AIは大学教職員の頼れるパートナーになりえるのか？ ～AIを活用した教育活動の効率化・高度化を考える～」	立山剛	中4教室	全専任教職員	25名

TCU のチカラ—TCU の神学教育の意義—

篠原基章

■はじめに

アイルランドの劇作家ジョージ・バーナード・ショー (George Bernard Shaw, 1856-1950) は、次のような言葉を残しています。

人生とは、短いローソクではない。人生は今この時代に私に託されている輝くトーチであり、私はそれを後世に引き継ぐまでの間、できる限り明るく燃やしたいのだ。¹

バーナード・ショーは、人生を個人主義的な意味合いを持つローソクとして捉えず、歴史的・共同体的なものとして捉えました。TCU が開学して 34 年。このトーチは、教団・教派を超えた三校合同という歴史的な出来事によって産声をあげました。これは日本宣教・世界宣教を担う働き人の育成のために、それぞれの神学校の賜物を結集するという画期的な合同でした。先駆者たちの祈りと決断、そしてそれを現実のものとした行動力と実行力に圧倒されます。

しかも、私たちの先駆者たちのビジョンは非常に大きいものでした。彼らのビジョン、単に三校が合同した「神学校」を設立することではなく、「福音派のクリスチャンリベラルアーツ教育を行うことができる大学」として TCU を設立したのでした。TCU が大学であることの自己理解を深めていくことは重要です。

TCU はその開学当初から教会に仕える牧師・伝道者の育成と共に、信徒として教会と社会に仕える働き人の育成に取り組んできました。そして、今、TCU というトーチは、私達の手にも委ねられています。しかし、その灯火は消えかかっています。40 億あった財源は 12 億となり、その内の 10 億を TCU を閉じるために必要な資金と考えた場合、残された期間は 2 年。あと 2 年の内に、TCU の財務改善・収支均衡が果たさなけ

¹ “Life is no ‘brief candle’ for me. It is a sort of splendid torch which I have got hold of for the moment, and I want to make it burn as brightly as possible before handing it on to future generations.”

れば、TCU の火は消えることになります。

今、問われていることは、財務的な課題だけではないでしょう。今、問われていることは、「TCU の存在意義」だと考えています。もし、TCU が既に不必要な存在となっているのであれば、それに抗うことはすべきではないでしょう。TCU で働く者として、TCU がなくなっては困ります。ですが、私たち教職員のために TCU があるわけではなく、TCU のために私たちが働いているのです。ですから、TCU の教育の意義がもうないのであれば、TCU はその火を自らの手で消すということも必要な判断でしょう。

TCU を大学として存続させる必要はあるのでしょうか。まず、この問いに私たちは答えなければなりません。今日はこのことを中心にして、私の考えを率直にお分かちしたいと思います。

■TCU の神学教育の意義

私は TCU を「神学校」としてだけでなく、「大学」として残す意義があると考えています。皆さんは、その確信がどこから来るのかと問うでしょう。私の確信の根拠は、今ここで学んでいる学生たちと卒業生にあります。私は男子寮主事、学生部の働きを通して、また教員として学生に関わるなかで、学生たちが TCU で学びと寮生活を含む学生生活を通して、霊的にも知的にも人間的にも大きく成長していく姿を見してきました。

学生たちは授業を通して、知的に良い訓練を受けていると思います。学期末は学生も大変ですが、教員も大変です。採点地獄と冗談で言ったりしますが、教員にとって採点の時は本当に恵みの時です。学生が、授業の内容を深いレベルで咀嚼し、自分の考え方、生き方、そして将来の働きミニストーリーに活かそうとしている手応えを感じることができる。オープンキャンパスにおいて、学生たちへの台本なしのインタビューがあります。ぜひ、学生たちの生の声を聞いてみてください。学生たちが、どれだけ深いレベルで TCU の教育内容を受け取っているかを知ることができます。

また、寮生活は大事な TCU 教育の柱だと考えています。通学ができるようになったことは良いことだと思います。様々な理由で寮生活をするのが難しい学生たちがいるからです。通学生を受け入れることで、TCU の教育を提供できる幅が広がったと思います。しかし、TCU の寮生活の意義がなくなったということではありません。むしろ TCU の教育的特徴はやはり寮生活にあると考えています。TCU には誰もが安心して

悩み、葛藤し、成長することができる環境があります。このような環境は通学では作ることができないのです。KGK で主事をされていた田中さんが「TCU にあって KGK になものは寮生活」だと話してくれました。ハッとさせられました。自分を隠すことができない状況（裸の自分をさらけ出す環境）に置かれた時、それまで向き合っていない自分と向き合い、時に人とぶつかります。四年間の中で、多くの学生が自分につまずき、人につまずき、信仰がゆさぶられていきます。そして、それらを乗り越えることで本当の意味で成長・成熟していくのです。寮で学生を教育するというよりも、寮そのものが学生たちを育てていると考えています（環境が大事）。

もちろん成功の物語（成長の物語）だけではありません。心を痛めるような出来事は起こります。様々な事情で退学をしていった学生たちのことは常に私の心の中にあります。私が駆け出しの寮主事だったとき、学生相談室室長の杉谷乃百合先生が、「退学には良い辞め方と悪い辞め方がある。辞めるならきちんとした辞め方（良い辞め方）をさせなくてはならない」と話してくれました。このことを大事にしながら、学生と向き合ってきました。TCU は辞めていく学生とも真剣に向き合う大学です。それは、TCU が単なる大学ではなく、信仰共同体だからだと考えています。それゆえ、教授会では退学受理の手続きをした後に、その学生のことを覚えて祈るということが続けてきました。

寮生活と学生生活の最前線にある学生部の働きは、教育的な働きです。学生たちの様々な成長のドラマ（ある時は、失敗のドラマ）を見せてもらえたのは、寮主事をさせて頂いた特権だと思っています。「寮主事をすると本が書けるようになる」と思うほど、学生たちの一人ひとりの歩みはまさに成長のドラマです。TCU は、献身の思いを持った老若男女が、福音主義の神学を学び、御言葉と向き合い、寮生活・教会実習・委員会活動などを通して、神に取り扱われ、自らの向き合い、キリストの奉仕者として尖った部分が削ぎ落とされ、良い部分がますます磨かれ、そしてそれぞれの現場へと出ていく場所です。

これまで千人を超える働き人を TCU は送り出してきました。TCU が開学して 34 年。これからが TCU の実がいよいよ結実してくる時だと考えています。今、TCU の開学当時に学んだ人々が 50 代になり、指導的な役割を担っているからです。教団の責任を担う卒業生たちが実際に出てきています。この時も、それぞれの現場において、「Stand in the Gap—破れ口にキリストの平和を一」のスピリットを実践している卒業生たちがいるのです。

TCU は F ランクの大学（学力がなくても入れる大学）であると言われことがあります

す。どこにも入ることができない人達が入る大学だという認識が教会の中にあります。でも本当にそうなのでしょうか。学力の幅があることは事実です。ですが、それはTCUが学力という一つの指標だけで学生を測ることをしていないからです。大学でするので基礎学力は必須です。ですが、TCUは偏差値だけで測ることはしない本来の教育の豊かさを持った教育機関なのです。

入試の時に受験生たちは、献身の思い、宣教への情熱を語ってくれます。私にとって入試の面談は初心に帰る大切な時です。

私はTCUの神学教育の意義は今日も変わらずあると確信しています。その根拠は、ここで学んでいる学生たちと卒業生たちです。TCUの宝は、学生たちであり、私たちの教育の実は卒業生たちが証明してくれると確信しています。

■ミッションスクールとは異なるTCU

先日、高二になる娘のオープンキャンパスに同行させてもらい、あるミッションスクールの大学に行ってきました（ちなみに、娘はTCUのオープンキャンパスにも参加する予定です）。私は娘とは別に哲学の模擬授業に出してきました。とても質の高いよい授業でした。キャンパスは美しく、教育理念も明確で、とても良い大学だと思いました。ですが、ミッションスクールのオープンキャンパスに参加して、よりTCUが本当に特別な大学、唯一無二の学び舎であることを実感しました。

TCUの独自性はどこにあるのでしょうか。それは、全員が同じ信仰を持っていること、「全員クリスチャン」、「信仰共同体としての大学」であるという点だと考えています。これは決してノンクリスチャンを下に見ているということではありません。ミッションスクールは、クリスチャンもノンクリスチャンたちもそこで基督教の思想に触れることができる場です。数え切れない若者たちがミッションスクールを通して、聖書の思想に触れ、社会に送り出されてきました。その意味で、ミッションスクールの貢献を称えるべきです。

ですが、TCUはミッションスクールとは、異なっています。TCUはクリスチャン、しかも献身を表明したキリスト者が入学する学び舎です。TCUは、「キリスト者が『キリスト者』になる」ための、すなわち「キリスト者が、『キリストの奉仕者』に整えられていく」ための神学教育機関だと捉えています。TCUは「キリスト教主義の大学」というよりも、むしろ「神学教育機関」なのです。それゆえ、TCUは「大学的」であるというよりも、より「神学校的」なDNAを持った「神学大学」なのです。

■「神学校+α」な神学教育

TCU はより神学校の DNA（特色・性格）を持っていると述べましたが、私は TCU の神学教育は「神学校+α」の部分に特徴があると考えています。何が「+α」かというと、TCU は開学当初から、牧師・伝道者の神学教育と共に、信徒の召しに応えていくための神学教育を行ってきました。それゆえ、開学当初において、「神学科」に加えて、「国際キリスト教学科」の二学科でスタートしました。この「国際キリスト教学科」（国キ）という学科が TCU の神学教育の独自性を形づくってきたと考えています。

「国キスピリット」という言葉を聞いたことがあると思います。開学当初、牧師・伝道者を目指す「神学科」の学生は献身者・神学生であるが、「国キ」の学生はそうではないという見方が教会において強く残っていました。初代国キ専攻の学科長であり、国キの生みの親でもある湊晶子先生は国キの学生たちと国キのアイデンティティについて語り合ったことを何度も授業やチャペルを通して語っておられました。国キの教員と学生たちは、自分たちもキリストに献身した同じ働き人であり、牧師と信徒の献身者が「両輪」のようになって教会は立て上げ、宣教は進展していくのだと理解していたのです。そして、この理解が今の TCU の神学教育のユニークさを形作ってきたと考えています。

国キのビジョンは、さまざまな分野や領域において、キリストの平和をもたらすキリストに献身した働き人を養成することにあります。国キ学科長でもあった倉沢正則先生は、TCU の教育は「実社会に分け入って、キリストの福音に生き、世界大の視野を持ち、異文化理解を身につけた宣教のスピリット溢れる」人材育成を目指すとしています。

「国際」というと、グローバルな働きをイメージしますが、TCU の「国キスピリット」における国際とは、社会の様々な領域全てを意味しています。ですから、福祉が国キに加えられたことは、必然だと思っています。「国際キリスト教福祉学科」という名称は、外部の人には分かり難かったと思いますが、TCU のキリスト教福祉は、国キスピリットの具体的な体現であったのです。

■「つながる。聖書、世界、私。」

TCUの神学教育の特徴は、御言葉を土台とする神学の学びに加え、私たちが生きている、そして私たちが遣わされていく世界、文化、社会、歴史について学び、それらを問いの循環として学んでいくことにあると考えています。

これは2つのWとして表現できると思います。一つめのWは「Word（聖書）」、そして、二つのWは「World（世界）」です。TCUの神学教育は、教職者も信徒もこの二つのWを両輪として掛け合わせながら（クロスしながら）学びを創造的に積み上げていくことにあると考えています。私たちキリスト者が世界に目を向け、現実社会の様々な課題や破れ口について学んでいくとき、逆に神学が（教会が）何を問われているのかについて気づかされるのです。そして、そのような学び、「聖書」と「世界」の循環の中で神学は生命あるものとなり、「わたしの使命」につながって行くのだと思うのです。まさに、「つながる。聖書、世界、私。」です。そのような意味で、TCUの神学教育は「宣教的（missional）」であり、「受肉的」です。

初代学長の丸山忠孝先生は、聖書の基礎とする神学と国際を含む一般諸学（世界についての学び）の関係性について、次のように述べています。「聖書を基礎とする神学の学びは……、一般教育の諸学〔リベラル・アーツ教育〕と国際関係や国際文化の諸学と学際的、有効的、生命的に関与する。」丸山先生は、神学は一般諸学に対して「学際的、有効的、生命的」な関係を持つのだと論じました。それは、神学そのものが世界を理解するという根源的な学び（コスモロジーの学び）であり、世界（歴史、文化、社会）に対して積極的且つ創造的に関わる使命と責任を帯びているからです。

クリスチャン経済学者であった隅谷三喜男はクリスチャンの使命について、キリストの受肉との関連で以下のように論じています。

現実の社会は、信仰生活と両立しないようなさまざまな問題をはらんでいます。ですからとにかくクリスチャンといわれる人たちは、現実の社会にはいろいろな問題がある、そこで問題の少ない所で生活しよう・・・、なるべく社会の汚濁に接触しないようにする。パンを得るためにはこの世俗の中に生きなければならないので、社会と接触しないわけにはいかないのですが、それはほどほどのつき合いにしておこう、と考えて現実に対していくということにもなるのですが、私たちキリスト者の生きる道はそれでよいのでしょうか。

キリストは決してこの歴史の世界、我々の現実とほどほどに接触するという生

き方をなさったのではないのであって、歴史のただ中に、罪の現実の中に入り込まれたのですから、私たちもまたキリストにならう者として、この世のただ中に入っていかなければならない。これが私たちが十字架を負ってキリストに従うことであり、「受肉の信仰」を受け入れ、そして私たち自身の信仰が「受肉する」ということなのであります。それはこの世に対して、積極的に取り組むということを意味していると言わなければなりません。

国キ学科があった頃、「国キフォーラム」というものがありました。2003年の国キフォーラムで語られた当時の学生の言葉をそのまま引用したいと思います。その当時は国キを ICS と言っていました。

もし TCU から国キがなくなったらここは『教職養成大学』。TCU がユニークなのは国キがあるから。じゃあそのユニークさってなんだろう。それは国キが伝統的な神学校とキリスト教主義大学〔いわゆるミッションスクール〕との間の道を歩んでいこうとしていることで、その最先端を突っ走っているのが国キだ。国キは実社会において福音に力強く立ち、世界を福音化していく道筋を切り開いていこうとしている。そんな TCU は、伝統的な神学校でもなく、キリスト教主義大学でもなく『キリストの大学』であるという Identity は他の大学には無いユニークさだろう。」

PP: 何処にむかっているのかははっきりしている人、していない人はいると思うが、キリストに自分を明け渡し、ゆだねていく中でキリストにより方向づけられていくだろう。そしていま私たちは TCU/ICS が持つ可能性の中で将来への道を歩んでいる。」

TCU の神学教育の特徴を本当に良く理解していると思います。ここまで自分の大学の意義を自分の言葉で語れる学生は他にいるでしょうか。TCU のような大学は日本において他にあるのでしょうか。

■結び

TCUが開学して34年。TCUのトーチは、多くの先人の職員と教員とによって担われてきました。そして、今、そのトーチはここにいる私たち一人ひとりの手に託されています。今、TCUの灯火は消えかかっています。この火を消してしまってよいのでしょうか。

廣橋信一理事長、小町事務局長、そして理事長補佐チームが、現実的な「危機克服方針」を策定してくださいました。その方針は、「大学としてTCUを残す」というものです。そして、今回がTCUを大学として残すための「最後の挑戦」になります。次はありません。廣橋先生は悔い改めによってこの改革を始めると語ってくださいました。私自身も悔い改めと覚悟をもって学長としての務めを全力で果たしていきます。

私が学長の責任を引き受けようと思えたのは、ここにいるお一人お一人がいたからです。TCUの火を消さないために、山口陽一先生たちが（朝岡先生も含めて）、既に様々なことに取り組み、財務改善と組織改革のための準備をしてくださいました。山崎龍一理事長補佐も惜しみなく力をかしてくれています。TCU外部から応援し、具体的な力を貸してくださる方々がいることは本当に感謝なことです。

覚悟を持って先に立ってくださった廣橋信一理事長、小町事務局長、副学長・学部長の岩田先生、経験豊かで頼りになる研究科委員長の岡村先生。教務部には誠実を絵に書いたような教務部長の五十三先生と堅実な職員の方々。学生部長という重いバトンを引き受けてくださった森恵子先生、そして長年一緒に苦楽を共にしてきた寮主事の先生方と献身的な学生部職員。これまでもそしてこれからもっともっと学生募集と寄付金ためにリードしてくださる頼もしい、そして明るい企画・広報部の面々。縁の下の力持ちとしてTCUの実際的なあらゆる部分を下支えしてくれている総務部の一人ひとり。そして、TCUを深く愛している教員たちがTCUにはいます。私が学長を引き受けることができたのは、皆さんの力を、そしてTCUの力を信じているからです。

TCUのトーチは、私たちの手に委ねられています。私たちの使命は、消えかかったトーチの炎を「持続可能な堅実な炎」にすることです。少しの風が吹いても決して消えることのない炎にすることです。そして、そのトーチをできる限り明るく燃やし、それを次世代へと引き継いでいくことです。私たちの使命は、次の30年のためのTCUの神学教育の礎を再建することにあります。私たち一人ひとりが、そのトーチの担い手です。

大学に求められる教学マネジメント (今回の FD を実施する背景)

1. 学修成果の可視化に取り組む 3 つの文脈

① 自律的な学修者の育成 (学生)

学修成果の可視化は、学生が自身の学びの進捗や達成度を明確に把握する手段であり、これにより学生は自らの学習状況を客観的に評価し、必要な改善点や強化すべき能力を特定できるようになる。このプロセスは、学生が主体的に学習計画を立て、自律的に学ぶ姿勢を育むことに寄与する。

② カリキュラムの改善 (教職員)

学修成果の可視化は、教職員が教育課程の効果を評価し、必要な改善を行うための重要な手段である。具体的なデータに基づいて、各科目やプログラムが学生の学習成果に寄与しているかを分析することで、カリキュラムの適切な見直しが可能となる。

③ 教育の質保証 (外部)

学修成果の可視化は、大学が提供する教育の質を外部に対して明確に示す手段であり、社会や認証評価機関に対して、大学の教育活動が適切に行われ、ディプロマポリシーに示す能力が達成されていることを証明する根拠となる。

2. 第 4 期認証評価

次期第 4 期認証評価で最初に掲げられている方針が「学習成果を基軸に据えた内部質保証の重視とその実質性を問う評価」である。具体的には以下のように、内容が求められる。

① 学生に身につけさせる能力等の明確化⇒DP ルーブリックの作成 (ワーク 1・2)

② ①の能力を身につけるためのカリキュラムの整備・実施

⇒カリキュラムポリシーの見直し、科目到達目標の見直し (ワーク 3)

③ 学修成果を測定・可視化する指標の明確化⇒アセスメントポリシーの見直し

④ 学修成果測定結果の活用方法の明確化⇒アセスメントポリシーの見直し

3. 参考資料

① 学習成果を基軸に据えた内部質保証実質化の参考資料

https://www.juaa.or.jp/common/docs/accreditation/evaluation_2025/other_11.pdf



ワーク I

グループ I

破れ口にキリストの平和を

①育成すべき人材像「Stand in the Gap. 破れ口にキリストの平和を」を意識して、TCU 生が卒業時に身につけて欲しい能力を書き出して下さい。

例) 汎用的技能：親和力、協働力、統率力、課題発見力、計画立案力、実践力、分析力 (PROG より)

態度・志向性：社会的責任、倫理観、生涯学習力、主体性、働きかける力

② ①で書き出した能力を以下の3つに分類して下さい。

知識・理解	汎用的技能	態度・志向性

③似ている能力は一つのワードにまとめて下さい。

例) 論理的思考力 (分析力、問題設定力、構造化力等)

--	--	--

④各能力に DP を割り当てて下さい。

DP 1. プロテスタント福音主義の意義を主体的に把握している。

DP 2. 東京基督教大学の超教派の理念を肯定的に理解している。

DP 3. 修得科目にふさわしい神学の知識とその応用力を身につけている。

DP 4. クリスマンとして人と社会に仕える姿勢および幅広い教養とその実践力を備えている。

DP 5. 神と教会に仕える情熱と、そのために必要な知見を備えている。

DP1	DP2	DP3	DP4	DP5

DP	評価の観点	能力	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
DP1：プロテスタント福音主義の意義を主体的に把握している。	知識・理解	福音主義理解	プロテスタント福音主義の意義の大切さを理解している。	プロテスタント福音主義の意義を歴史的な背景に基づき説明することができる。	プロテスタント福音主義の意義について教理に基づき自ら考えることができる。	プロテスタント福音主義の意義を実際の場面（日常生活や教会、社会）において考えることができる。
	態度・志向性	聖書を唯一の規範とする	聖書を唯一の規範として生きる大切さを理解している。	聖書を唯一の規範として生きることが具体的にどのようなことなのか理解している。	聖書を唯一の規範として生きる生き方について主体的に考え、自身の信仰生活に適用している。	キリストの愛と義を判断の基準として生きることを常に意識して行動している。
DP2：東京基督教大学の超教派の理念を肯定的に理解している。	知識・理解	超教派理解	自分の所属する教団・教派以外にも、多様な教団・教派が存在することを理解している。	自分の所属する教団・教派の特徴を把握し客観的に説明できる。	自分の所属する教団・教派に加えて、他の複数の教団・教派の違いを客観的に説明することができる。	各教団・教派の深い理解に基づき、超教派の理念を説明できる。
	汎用的技能	協働力	自分の所属する教団・教派に近い人と協働することができる。	自分の所属する教団・教派と異なる人とも協働することができる。	自分の所属する教団・教派とは異なる教団・教派の違いや多様性を尊重し、そこに所属する人と協働することができる。	教団・教派を超えて日本内外の諸教会と社会に奉仕することができる。
DP3：修得科目にふさわしい神学の知識とその応用力を身につけている。	知識・理解	神学の知識	大学での神学の学びに必要な基礎学力を身につけている。	基礎的な神学（聖書学、組織神学、歴史神学、実践神学）の知識を身につけている。	専門的な神学（聖書学、組織神学、歴史神学、実践神学）の知識の修得を積み重ね体系的に理解している。	修得した神学的知識の内容を実際の場面（日常生活、教会、社会）で活用できる。

	汎用的技能	論理的思考力	自分が適切と思う根拠や理由を示しながら、自分の意見を主張できる。	自分の意見を主張するために、客観的な根拠を集め、その信頼性を検証できる。	複数の信頼できる客観的な根拠に基づきながら、矛盾することなく自分の意見を主張することができる。	複数の信頼できる客観的な根拠に基づき、自分の意見を論理的に組み立て、創造的視点を加味して主張することができる。
DP4：クリスチャンとして人と社会に仕える姿勢および幅広い教養とその実践力を備えている。	知識・理解	幅広い教養	TCUが掲げるキリスト教リベラルアーツ教育の意義を理解している。	TCUが提供している幅広い分野のキリスト教リベラルアーツ科目を習得することで自己理解および他者理解を深めている。	TCUが提供しているグローバル・スタディーズ科目、キリスト教福祉科目ユース・スタディーズ科目を習得することで自己理解および他者理解を深めている。	多様な現代的課題に対しキリスト教世界観を土台とし、グローバルな視点、福祉的な視点、神学的視点を駆使して考えることができる。
	汎用的技能	問題解決力	神様が創造した世界の多様性を知り、関心を持つことができる。	大学内外の活動を通して世界（グローバル）や地域社会（ローカル）における課題（破れ口）を察知することができる。	課題（破れ口）に対して、問題点を整理し、仮説を立て、解決策を見出すことができる。	課題（破れ口）に対して、TCUで学んだ多様な視点をもって解決策を提案し、実行することができる。
	態度・志向性	福音を肌で感じさせる	神様が創造した世界の破れ（課題）に関心を持つことができる。	神様が創造した世界の破れ（課題）をより深く知るために学び始めている。	神様が創造した世界の破れ（課題）に痛みを覚え、人と社会に仕える準備をしている。	深い愛と共感を持って人と社会に仕え、破れ口（課題）にキリストの平和をもたらすために行動することができる。
	汎用的技能	問題解決力	教会での奉仕活動に関心をもち、参加している。	教会実習や奉仕活動（夏期伝道、キャンプ奉仕等）を通して、活動に対する課題を発見できる。	発見した課題に対して、問題点を整理し、仮説を立て、解決策を見出すことができる。	教会の多様な課題に取り組むため、解決策を提案し、実行することができる。

DP5：神と教会に仕える情熱と、そのために必要な知見を備えている。	汎用的技能	コミュニケーションスキル	基本的な対人マナーを理解し、適切な対人関係を築くことができる。	他者の意見を尊重し、信頼関係を築くことができる。	共通の価値観や目標を見出し、教会内外で積極的にコミュニケーションを促進している。	教会のニーズに柔軟に応え、適切にリーダーシップを発揮することで教会の成長に貢献することができる。
	態度・志向性	情熱	教会の奉仕活動に情熱をもって取り組むことができる。	教会実習や奉仕活動（夏期伝道、キャンプ奉仕等）に情熱をもって取り組むことができる。	取り組んだ活動に対して振り返りを行い、試行錯誤しながら改善を目指している。	福音宣教の情熱を持ち続け、神と教会に謙遜に仕えることができる。

現在のDPルーブリック案を確認し、ワークショップIで話し合った内容に基づき能力の修正案を作成して下さい。

またレベル1～4の評価基準について以下の観点で検討し、修正してください。

修正案にはない能力を追加した場合は以下の観点でレベル1～4を作成して下さい。

- ・評価しやすいか？
- ・評価に一貫性はあるか？
- ・成長段階は適切か？次の成長段階を目指す動機づけになっているか？
- ・自分の強みや弱みを把握し改善策を考えられる内容か？

DP	評価の観点	能力	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
DP1：プロテスタント福音主義の意義を主体的に把握している。	知識・理解					
	汎用的技能					
	態度・志向性					
DP2：東京基督教大学の超教派の理念を肯定的に理解している。	知識・理解					
	汎用的技能					

	態度・志向性					
DP3：修得科目にふさわしい神学の知識とその応用力を身につけている。	知識・理解					
	汎用的技能					
	態度・志向性					
DP4：クリスチャンとして人と社会に仕える姿勢および幅広い教養とその実践力を備えている。	知識・理解					
	汎用的技能					
	態度・志向性					
DP5：神と教会に仕える情熱と、そのために必要な知見を備えている。	知識・理解					
	汎用的技能					

	態度・志向性					
--	--------	--	--	--	--	--

到達目標について

○到達目標の書き方

- 到達目標は学生を主語にして記述する。
- 授業終了段階で学生が到達すべき具体的な行動を「〇〇できる」という形式で記述する。
- 行動が明確でない動詞は使用しない。例) 理解する、学ぶ、考察する、知る、修得する、身に付ける、把握する、感じる
- 評価方法を意識して基準や条件を記述する。例) 学生はアンケートを作成し、収集したデータから特徴を分析できる。
- 到達目標の数の目安は 3~5 とする。到達目標の数が 6 個以上になる場合は、担当科目の目的に最も関連する能力を優先する。
- 割り当てられた DP の能力に基づき知識、技能、態度に分けて、一つの文章に一つの目標を記述する。

○到達目標に使われる動詞の一覧

	知識・理解	汎用的技能	態度・志向性
基礎レベル	説明できる 列挙できる 要約できる 分類できる	調べることができる 整理できる 意見を表明できる 質問できる	始めることができる 姿勢を見せることができる 尊重できる 積極的に参加できる
中級レベル	指摘できる 一般化できる 例を挙げることができる 仮説を立てることができる	発表できる 提案できる 計画できる 分析できる	〇〇の態度を示せる 倫理的に行動できる 協調できる 主体的に取り組める
応用レベル	評価できる 適用できる 解釈できる 批判できる	創造できる 解決できる 改善できる 実践できる	リーダーシップを発揮できる 指導できる 模範を示せる 寄与できる

参照) ブルーム・タキソノミーの認知過程次元のカテゴリの定義と事例

ワーク3

名前（ ）

24年度担当した科目を一つ選び、以下の項目を記載してください。	
科目名	
割り当てられたDP	
現在の到達目標	
DP ルーブリック案を参照して割り当てられたDPの能力を意識して到達目標を修正してください。	
割り当てる予定の DPの能力	
修正した到達目標	
ワークをやって気づいたこと、難しかったこと、要望、提案等コメントを記載してください。	
コメント	
質問	

第3回 Faculty Forum

生成AIは大学教職員のパートナーになりえるのか？
～AIを活用した教育活動の効率化・高度化を考える～

2025/3/4

立山剛



1

タイムライン

2

9:00～9:05

オープニング

9:05～10:15

導入+事例紹介：情報リテラシーでの実践

10:15～10:30

休憩

10:30～11:10

グループワーク 1

11:10～11:50

グループワーク 2

11:50～12:00

クロージング

2

🎯 本日のゴール

3

生成AIの利用方法を共有することで、教育活動の効率化・高度化を図る方法を発見し、それを実際の働きに活かすこと。

3

チェックイン（オープニング）

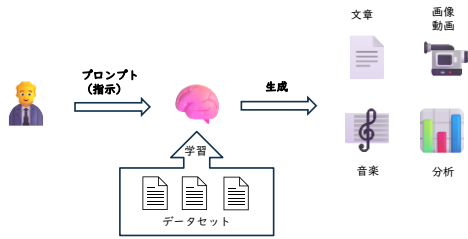
4

アンケート結果（リンク）
<https://docs.google.com/forms/d/1v7Jtz-EKKAT4RBdudLkJ4GTm5YALXQ08TvPWzh-KY64/edit#responses>

4

生成AIの仕組み

5



5

各大学の生成AI導入状況

6

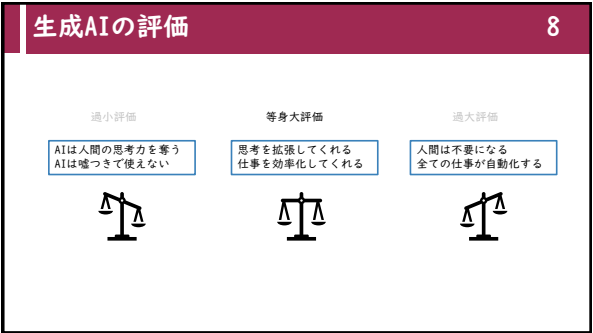
大学名	導入システム	利用
東京大学	Microsoft Copilot	全学構成員向けの生成AIサービスとしてMicrosoft Copilotを提供
大阪大学	Knowledge Stock	業務DX推進の一環として、全学の事務部門を対象に導入
東洋大学	AI-MOP (ChatGPT)	学生が自主学習し、AIを使ってプログラミングやシステム開発のスキルを学ぶ
東北大学	法人GAI (ChatGPT)	システム運営業務、報告書作成、プレスリリース作成、ニュース原稿作成、キャッチコピー作成に活用
武蔵野大学	ChatGPT	ICTヘルプデスクチャットボットを導入
東北工業大学	ChatGPT	事務のDXの施策として学内事務向けにChatGPTサービスの実証実験
近畿大学	Grafter AI Studio	経営企画、広報、教務など、さまざまな業務で効率化を図る

ChatGPT導入事例：<https://chatsense.jp/blog/ChatGPT-implemented-cases-university>

6

各大学の生成AIポリシー一覧		7
大学名	概要	
東京大学	生成AIは「検索」ではなく「 補強 」するシステム。 生成系AIがもたらす様々な社会の変化を先取りし、積極的に良い利用法や新技術、新しい法制度や社会・経済システムなどを見出していくべきではないでしょうか。（ 研究対象 ）	
大阪大学	生成AIツールで成果物を作成するだけでは、学びは深まりません。 大学での学び は学習のプロセスや豊かな人間性を育むための人的交流も重要であることを認識してください。	
東洋大学	ChatGPTを使って自分自身を問い、新しいアイデアを生み出すことができる学生は、自己実現型人材として社会で活躍できるでしょう。（ ポリシーとの整合性 ）	
東北大学	ChatGPT等の生成系AIが教育現場でプラスに活用されることも考えられますが、一方で、多くの学生がレポート作成等に利用することで、従来の演習課題やレポート課題による教育効果が十分に発揮されなくなったり、適切な 成績評価 ができなくなるという懸念も生じます。	
近畿大学	人との対話において、他人の意見が本当に正しいかどうかを判断するのは自分自身です。相手が生成系AIの場合も同様で、生成された文章を鵜呑みにするのではなく、文献や公式資料など自ら根拠を確認し、表現することを必須とします。このような 検証作業 は、文章力の向上だけでなく、批判的な思考力や情報分析能力の育成に繋がります。	
生成AIポリシー一覧表（2024年6月現在400大学）： https://docs.google.com/spreadsheets/d/1c00p0ldu9J0Yuf0T6G33o1x509n210z/edit17gjd=1530250804&ajd=1530250804		

7



8

生成AIの利用リスク		9
入力の課題	仕様（AI）の課題	出力の課題
- 個人情報保護法抵触のリスク →個人情報が入りしない - 学習データに使用されるリスク →機密（非公開）情報は入力しない	- 再現性が保証されない - 学習データの影響を受ける - プロンプトの影響を受ける →AIの特性を理解し試行錯誤する	- 著作権法抵触のリスク →類似性の高い著作物を利用しない - 事実と異なるリスク （ハルシネーション） →生成物を検証する

9

ハルシネーションの例		10
### 役割 あなたは情報哲学に関する専門家です。 ### 目的 世間では情報リテラシーの授業でAIが浸透する社会における人間の自由意志について考えるための参考資料を学生に提供します。 ### 出力 ### 条件に促して、学業の名前、著作（日本語タイトル）、著作のリンク、出版年、論点の一覧表を作成する。 ### 条件 - 著作は日本語（翻訳を含む）であること - 2010年以降の著作であること - 件数：AIによるハルシネーションと自由意志の問題点を扱う著作を5件選ぶこと - 出版年を古い順にすること ### 例 2011年 イーワイ・バリサー フィルター・バブル		

10

ハルシネーションの例

11

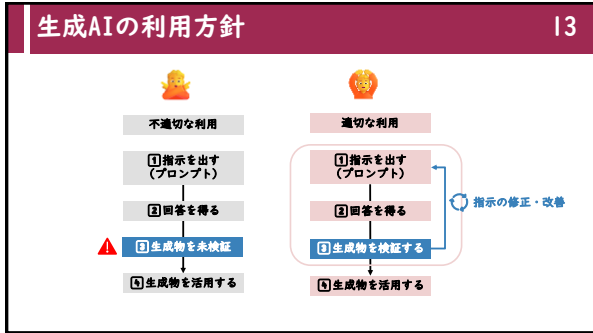
以下に、AIの普及に伴う人間の自由意志に関する問題や、フィルター・バブルに関する5つの著作を、出版年の古い順にまとめました。

出版年	著者の名前	著作（日本語タイトル）	著作のリンク	論点
2012年	イーワイ・バリサー	フィルター・バブル：インターネットが閉じていくこと	Amazonリンク	インターネット上でのパーソナライズ化がもたらす情報の偏りと、その影響
2014年	ジョン・ナズボフ	監視資本主義：人類の未来を脅かす新しい戦い	Amazonリンク	個人のデータ収集と利用による監視資本主義の台頭と、その社会的影響
2016年	キャンシー・オニール	ウェアブル化する数字：アルゴリズムがもたらす不平等	Amazonリンク	アルゴリズムが社会的な不平等を助長するリスクと、その影響
2018年	ジェームズ・ブライドル	ニュー・データ・エイジ：テクノロジーと未来の終わり	Amazonリンク	テクノロジーの進化がもたらす不透明性と、それによる社会の混乱
2020年	カルロ・ストロング	人工知能と人間の未来：AIが変える社会と倫理	Amazonリンク	AIの発展が人間の自由意志や倫理に与える影響と、その未来

11

ハルシネーションの例		12
5件目の英語のタイトル < 1/2 > 申し訳ありませんが、「カルロ・ストロング」という著者の情報や、その著作「人工知能と人間の未来：AIが変える社会と倫理」に関する信頼できる情報を見つけることができませんでした。		

12



13

補足：ハルシネーション

14

生成AIから適切な回答を引き出すために…

- Aの文献では〇〇と論じられています。
- Bの文献では××と論じられています。
- AとBの文献から、私は△△と考えたのですが、あなたの考えを教えてください。
- 以上の議論を踏まえて、さらに理解を深めるための文献を3つ提示してください。

14

事例紹介：情報リテラシー

15

- シラバス作成
- 教材作成
- 授業設計
- グループディスカッション
- 試験問題作成
- ルーブリック評価
- 成果物の例：レポート、AI生成物、統計分析
- 統計分析
- 授業評価アンケートの分析
- 授業アシスタント

15

シラバス作成

16

現在の内容を校正する

以下は情報リテラシーのシラバスに記載された「授業の内容とねらい」です。修正箇所のみ太字にすることで修正箇所がわかるように校正してください。

< 授業の内容とねらい >

情報のデジタル化、インターネットの発展、スマートフォンの普及に伴い、デジタル技術は私たちの生活に浸透し、様々な利便性をもたらすと同時に新たな課題を生み出しています。この授業では、AR、VR、IoT、AIといったデジタル技術を理解し、私たちの働き方、経済活動などにどのような影響を与えているのか考えます。その活動を通して情報リテラシーに求められる力を実践的に身につけます。同時に、情報機器の活用をとおして情報機器の仕組みを理解し、情報機器の活用スキルを身につけます。また、データの価値が増大するデータ駆動型社会で必要とされるデータリテラシーの初歩について学ぶだけでなく、統計ソフトを用いてアンケート分析を行うことで、統計分析の方法を理解し実践します。最後に、著作権、情報セキュリティ、ソーシャルメディアリテラシーなど情報倫理の学習をとおして、情報社会におけるリスクを回避し、法を遵守した適切な行動と態度の涵養を目指します。

16

シラバス作成

17

以下に、修正箇所を太字に示した「授業の内容とねらい」を記載します。

< 授業の内容とねらい >

情報のデジタル化、インターネットの発展、スマートフォンの普及に伴い、デジタル技術は私たちの生活に浸透し、様々な利便性をもたらすと同時に新たな課題を生み出しています。この授業では、AR、VR、IoT、AIといったデジタル技術を理解し、私たちの働き方、経済活動などにどのような影響を与えているのか考えます。その活動を通して情報リテラシーに求められる力を実践的に身につけます。同時に、情報機器の活用をとおして情報機器の仕組みを理解し、情報機器の活用スキルを身につけます。また、データの価値が増大するデータ駆動型社会で必要とされるデータリテラシーの初歩について学ぶだけでなく、統計ソフトを用いてアンケート分析を行うことで、統計分析の方法を理解し実践します。最後に、著作権、情報セキュリティ、ソーシャルメディアリテラシーなど情報倫理の学習をとおして、情報社会におけるリスクを回避し、法を遵守した適切な行動と態度の涵養を目指します。

17

シラバス作成

18

授業構成と割り当てられたDP能力から到達目標を提案

- 能力別の到達目標が提案される
- 作成した到達目標について意見を確認する
- 改善案が提示される

<https://chatgpt.com/share/67c535d4-58d8-8002-9a16-0e8d72aac564>

18

教材作成

19

スライドを校正する

<https://chatgpt.com/share/67c54c99-8538-8002-bc77-5f5b29dfecd4>

19

教材作成

20

スライドに用いる画像を作成する

<https://chatgpt.com/share/67c53581-321c-8002-a9b1-bd4f48a39a5b>

20

教材作成

21

練習問題のデータを作成する

<https://chatgpt.com/share/67c5354e-efac-8002-aa28-4a3059c82afa>

21

授業設計

22

- ・ 授業スライドから授業設計を依頼する
- ・ グループワークの設計改善
- ・ 授業後の課題提案

<https://chatgpt.com/share/67c535a8-f240-8002-be4f-8fd35d273078>

22

グループディスカッション

23

AIを利用したグループディスカッションの流れ

1. ディスカッションのテーマについてAIと対話する
2. 提示された論点をグループでディスカッションする
3. ディスカッションした内容についてAIに確認する
4. 論点を深掘りするための視点や、新たな論点が提示される
5. 整理した論点を発表する

23

グループディスカッション

24

AIを活用したグループディスカッションのメリット

- ・ 短時間で論点を知ることができる
- ・ グループにAIがいることで論点が整理される
- ・ 各グループから違う論点が出てくる
- ・ グループディスカッションが止まらない

24

25

- <https://chatgpt.com/share/67c534b7-346c-8002-8945-c08e56e9e31f>

25

26

<https://chatgpt.com/share/67c53310-6fe0-8002-a512-e651cb61368e>

26

27

<https://chatgpt.com/share/67c53489-4fdc-8002-a9fb-ea2db78ff0b8>

27

28

- 28

29

4%E6%A4%9C%E5%87%BA%E5%99%A8

29

30

入力されたテキスト

30

AIの文章はチェックできるのか？

31

AIの文章チェックが難しい理由

- 文章を切り貼りしてわけではない。
- 生成物を少し修正すれば見分けられない。
- 入力者の文章の癖を学ぶことができる。

1. 生成AIの問題点：判別の難しさ

教育評価における生成AIの問題点は、学生が生成AIのみを使用して成果物を作成したとしても、その成果物が学生かAIのどちらによるものなのか、技術的に判別が難しいことにあります。剽窃チェックツールも開発されていますが、現時点では正確ではないため、それらのツールによる判定を信用しない方がよいでしょう。たとえば生成AIの不正使用が疑われたとしても、学生が生成AIを使用していないと主張すれば、教員はその言葉を受けるしかない場合もあります。

大阪大学：生成AI教育ガイド
https://www.osaka-u.ac.jp/project/generative_ai/assessment_ai.html

31

学生の成果物：統計分析

32

情報リテラシーでは以下の内容を学んでいる

- データ集計
- 相関分析
- 回帰分析
- テキストマイニング

32

統計分析（有料版）

33

条件

- 無料版は入力トークン数（2500語）に制限がある
- ChatGPTで直接統計分析を利用するためには有料版が望ましい

無料版での利用

- データを提示することで分析方法を提案してもらう
- 知りたい結果を得るための分析手順を提案してもらう
- Excel等で分析した結果の解釈を提案してもらう

例)

<https://chatgpt.com/share/67c5342a-6608-8002-9988-7fd4825dd932>

33

授業評価アンケート結果の分析

34

<https://chatgpt.com/share/67c5325e-de74-8002-9338-8c22f1147665>

34

授業アシスタントを作成する（有料版）

35

授業で準備した資料を読み込ませることで、資料に基づく回答を学生に提供します。

作成画面

<https://chatgpt.com/gpts/editor/g-67c461c935c081919d035f3562e759a3>

結果

<https://chatgpt.com/share/67c53359-efd4-8002-8cb1-7784f113af65>

35

AI家庭教師プロンプトを作成する

36

AI家庭教師に作文をサポートしてもらう例

<https://chatgpt.com/share/67c53185-59f0-8002-a8f0-d92b1243ab17>

36

グループワークについて

37

1. ファシリテーターと書記を決めてください。

2. 書記の方は用意されたワークシートに参加メンバーを記入し、ワークシートに従って話し合った内容を記録してください。

3. ワークシートは全グループ共有になりますので、他のグループの内容を消さないよう注意してください。

4. ファシリテーターの方は、記入内容に基づいて発表をお願いします。

37

ワーク I

38

1. 生成AIをすでに活用している方は、ご自身の利用方法を分かち合ってください。

2. 今日の事例発表から個々の授業・授業外で活用できると考えたことを分かち合ってください。

38

評価方法への影響

39

生成AIのインパクト大

	知識・理解	思考・判断	技能	関心・意欲	態度
筆記試験	○	○			
論述課題	○	○			
レポート課題	○	○	○	○	○
観察法	○	○	○	○	○
口述（面接）試験	○			○	○
実技・実演		○	○	○	○
ポートフォリオ			○	○	○
自己評価				○	○

大阪大学：生成AI教育ガイド
https://www.lic.osaka-u.ac.jp/project/generative_ai/assessment_ai.html

39

評価方法への影響

40

生成AIの影響の多い評価形式

選択回答式問題：多肢選択問題、正誤問題、順序問題、穴埋め問題

自由記述問題：説明問題、推論問題、作問法

パフォーマンス課題：小論文、研究レポート、研究論文、プレゼンテーション、実験計画

生成AIの影響の少ない評価形式

活動要素の点検：発問応答、活動観察

実技テスト：面接、口頭試問、実験器具操作

(吉田 2023)

40

AIアセスメントスケール

41

	AIは使用できない NO AI	生成AIのインパクト大
1	AIは使用できない NO AI	知識・理解
2	AIで構想・計画する AI PLANNING	思考・判断
3	AIとコラボする AI COLLABORATION	技能
4	AIを全面活用する FULL AI	関心・意欲
5	AIを応用する AI EXPLORATION	態度

大阪大学：生成AI教育ガイド
https://www.lic.osaka-u.ac.jp/project/generative_ai/assessment_ai.html

41

AIアセスメントスケール：レポート作成

42

AIアセスメントスケール	レポート作成方法	活用できるAI機能	適切な評価目標
1. AIは使用できない (NO AI)	AIは一切使用せず、情報収集・執筆・校正をすべて自分で行う。	なし	正確な情報収集を行い、自分の言葉で論理的に表現できる。
2. AIを構想・計画する (AI PLANNING)	AIをプロンプトエンジニアリング、アウトライニング作成、リサーチの補助として使用するが、最終的な執筆は自分で行う。	アイデア出し（論点整理） リサーチ支援（文献検索のサポート） アウトライニング作成の補助	AIを活用して情報を整理し、体系的なレポート計画を立てられる。 AIが提案したアイデアを発展・改善し、自分の論点を構築できる。
3. AIとコラボする (AI COLLABORATION)	AIを部分的に活用し、アイデア出しや文章作成のフィードバックを受けながら執筆。AIの出力を批判的に評価・修正する。	文法・構成チェック 文章の修正提案（より明確な表現の提案） 論点の深掘り（AIと対話して視点を広げる）	AIが提供する情報を分析し、適切なものを選択できる。 AIの出力をそのまま使わず、適切な批判的評価・修正ができる。
4. AIを全面活用する (FULL AI)	レポート全体をAIのサポートを受けながら作成。ただし、論理の流れや最終的な評価は自分で行う。	文献検索と要約 データの分析とグラフ作成 レポートの各章の下書き作成	AIを適切に活用しながらも、独自の視点を持って論理的なレポートを作成できる。 AIの出力を適切に評価し、必要に応じて修正できる。
5. AIを応用する (AI EXPLORATION)	AIと併用してレポートを「設計」し、新しい知見を生み出す。AIを活用して創造的なアプローチを試みる。	仮説の構築と検証 高度なデータ解析と予測 異分野の知識を統合した議論の構築	AIと協働して新たなアプローチを試み、革新的な解決策を考案できる。 AIの提案を活用しつつ、独自の視点を加えて新たな知識を生み出せる。

42

ワーク 2

43

1. AIアセスメントツールに基づき以下の項目について検討してください。

- ・ 評価方法・課題内容の工夫
- ・ 到達目標の変更
- ・ 教育内容の修正

43

参考資料

44

東京大学 吉田壘先生 Manabi AI

<https://manabiai.super.site/>

NTTドコモ 森木銀河先生 P4Us

<https://promptforus.com/docs/>

大阪大学生成AI教育ガイド

https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/generative_ai/

44

ワーク1

グループメンバー：

設問1：生成AIをすでに活用している方は、ご自身の利用方法を分かち合ってください。

具体的な場面での活用方法と効果

現在感じている課題や問題点

設問2：今日の事例発表から個々の授業・授業外で活用できると考えたことを分かち合ってください。

今回の活用事例から自分の授業や授業外の業務で活用できそうと思ったアイデア

そのアイデアを実行した場合の懸念点や課題

ワーク 2

グループメンバー：

設問Ⅰ：AI の評価方法への影響と AI アセスメントツールに基づき以下の項目について検討してください。

評価方法・課題内容の工夫

①現在の評価方法・課題内容を振り返る②学生が AI を利用した場合の影響を検討する③評価方法・課題内容の工夫を分かち合う。

例) AI を利用した場合レポートで学生の思考力を評価できないため口頭試験を導入する。

到達目標の変更

①現在の到達目を振り返る②学生が AI を利用した場合の影響を検討する③AI 利用に対応した到達目標を検討する

例) AI を使用することで統計分析が容易となったため到達目標から数学的理解を省き分析結果を求め解釈できることとする。

教育内容の修正

評価方法・課題内容の工夫、到達目標の変更を踏まえて教育内容の修正が必要になるか検討する

例) AI 以前の情報リテラシーではウェブ上の情報を収集し情報を整理できる能力を求めたが、情報の収集・整理は AI が実行できるため、AI が生成した情報を検証し、批判的に活用できる能力を育成する内容に修正する。

付 録

東京基督教大学 授業相互評価

日時：

科目名：

授業者：

評価者：

1. シラバスについて

(到達目標は学生が何を達成すべき明確である。課題の内容・評価方法は理解しやすい。)

2. 授業の構成（教える内容量は適切か、授業の到達目標、タイムスケジュールは明示されているか）
3. 担当教員の指導（声の大きさ、わかりやすさ、熱意、学生の質問や意見に適切に対応しているか）
4. 教材について（事前提供はあるか、教材のみやすさ）
5. 授業方法（グループワーク、ディスカッション等アクティブラーニングの方法を効果的に活用しているか）
6. グループワークについて（時間、テーマ、アウトプット等事前に明確にされているか）
7. 時間配分（質問の時間、意見交換の時間確保、休憩時間の確保、授業の終了時間は守られているか）
8. 授業外の学修を促す工夫（授業録画の視聴許可、授業を振り返るためのワークシートの提供など）
9. 課題について（取り組むべき内容や評価の方法は明確か、課題の量は適切か）
10. 良い点を具体的に記述してください。
11. 改善が見込まれる点を具体的に記述してください。

東京基督教大学
2024 年度 学生による授業評価アンケート 実施記録

- a. 対象科目：全科目（一部の実習科目を省く）
- b. 回答期間：各学期、授業の最終週から期末試験終了の1週間後まで
- c. 回答方法：TCU オンライン
- d. 記名式：無記名（性別 学年 専攻のみ記入）
- e. 質問項目：
 - 回答の選択肢（「履修した動機」以外の質問）
 - そう思う
 - どちらかと言えばそう思う
 - どちらとも言えない
 - あまりそう思わない
 - そう思わない
 - 1. 授業のわかりやすさ
 - a. この授業では到達目標が明確に示されていた
 - b. 授業内容のレベル（難易度）は適切だった
 - 2. 授業の進め方
 - a. 時間配分など、先生の授業の進め方は適切だった
 - b. 先生は、学生の理解度を確認しながら授業を進めていた
 - c. 授業で課される課題の量は適切だった
 - d. 先生は、学生が質問や意見を述べられるように配慮していた
 - 3. 先生の態度・対応
 - a. 学生からの質問・提出した課題等に対して、先生から適切なフィードバックがあった
 - b. この授業に対する先生の熱意を感じた
 - 4. 学生の動機
 - a. この授業を履修した動機は何ですか？
（回答の選択肢） 単位を取りたいから、時間があったから、将来に役立つから、先輩に勧められたから、必修だから、シラバスを読んで興味をもったから、
○○先生が担当しているから、その他
 - 5. 学生の理解
 - a. この授業の内容を理解できた
 - b. シラバスに書かれているこの授業の到達目標を達成できた
 - 6. 学生の興味
 - a. この授業の分野について、興味・関心が湧いた
 - b. この授業を後輩にも勧めたいと思う
 - 7. 学生（自分自身）の態度・対応
 - a. 授業中に積極的に質問や意見を発言した
 - b. 授業時間があっという間に過ぎるように感じた
 - c. この授業の予習や復習に十分な時間をかけた
 - d. この授業を受けて満足した
 - 8. 自由記述
 - a. この授業を履修して良かったと感じる点をお書きください
 - b. この授業をより魅力的にするために、具体的な改善策（環境、教材、課題、進め方の工夫等）を提案してください

(英語版)

Answers (Except for question #9, 18, and 19)

- I agree
- I moderately agree
- No opinion
- I moderately disagree
- I disagree

Questions

1. The goal of the course was clearly stated.
2. The level of difficulty of this course was appropriate.
3. The pace and time allocation of class was appropriate.
4. The instructor checked students' understanding as he/she taught.
5. The amount of assignments was appropriate.
6. The instructor made it comfortable for students to ask questions and share comments.
7. The instructor gave appropriate feedback for students' questions and assignments.
8. The instructor was passionate about the lesson content.
9. What were your motivations to take the course?
 - a. To earn credits
 - b. I had time.
 - c. It will benefit my future.
 - d. My senior(s) recommended the course.
 - e. It was a compulsory course.
 - f. I was interested in the course when I read the syllabus.
 - g. The instructor is _____ sensei.
10. I understood the lectures.
11. I achieved the goals of the course stated in the syllabus.
12. My interest in the academic discipline of the course increased.
13. I would recommend this course to others.
14. I actively asked questions and shared my comments in the class.
15. I felt that time flew by during the class.
16. I spent enough time preparing and reviewing the course (outside the classroom).
17. I was satisfied with this course.
18. What were the best aspects of this course?
19. How could this class be improved? Please provide concrete examples (Class environment, Lecture Materials, Assignments, etc.)

東京基督教大学

2024 年度第 1 回ファカルティフォーラム

紀要合評会

日時 : 6 月 11 日(火) 15:50-18:10

会場 : FCC チャペル

Date: Tuesday, June 11 Time: 15:50-18:10

Place: FCC chapel

Program: Article/thesis review from TCU Journal "Christ and the World" No.34

「非正規滞在外国人の入管問題とキリスト教福祉実践Ⅰ」

発表者 井上貴詞先生

『キリストと世界』第 34 号掲載
の井上先生の論文を事前に読んでご参加ください。また、当日
『キリストと世界』をお持ちくださいますようお願いいたします。

ファカルティーディベロップメント委員会
TCU Faculty Development Committee

2024 年度ファカルティ・ディベロップメント活動報告

2025 年 5 月 1 日 発行

編集・発行 東京基督教大学
〒270-1347 千葉県印西市内野 3-301-5
電話 (0476) 46-1131
FAX (0476) 46-1405
<https://www.tci.ac.jp/>

©東京基督教大学 2025 年